

笑顔があふれる楽しい町



第6回 子どもが活躍する町 二十歳祭り2011

報告書

目次

はじめに	1
ミニたまゆりとは？ ミニたまゆりの沿革	2
第6回ミニたまゆりの概要	3
第6回ミニたまゆり運営組織	4
ミニたまゆりの通貨「ユリー」	5
各グループの紹介	6
公共グループの報告	7
制作グループの報告	8
遊びグループの報告	9
食事グループの報告	10
デザートグループの報告	11
イベントグループの報告	12
模擬裁判・市議会の報告	13
川崎市市長の訪問	14
子ども会議とは	15
第1回子ども会議	16
第2回子ども会議	17
第3回子ども会議	18
第4回子ども会議	19
第5回子ども会議	20
子ども市長の仕事・子ども市長インタビュー	21
アンケート集計結果（子ども）	22
アンケート集計結果（保護者）	24
アンケート結果（学生）	26
地域交流センターとは	27

はじめに

私が、はじめて「子どもの町」について知ったのは、2005年の夏でした。その年の11月に、数人の先生と学生で立ち上げた「子どもが作る町ミニたまゆり」は、教員も学生も、手探りの状態で始めたイベントでした。スタッフの経験不足や様々な不備などで、今思うと至らぬことが多い不完全なイベントだったと思います。それでも、来場してくれた子どもたちは楽しそうにイベントに参加してくれました。その子どもたちの笑顔や、私たちが考えるミニたまゆりの趣旨を子どもたちが理解してくれた時の感動を忘れられず、今までこのイベントを続けてこれたのだと思います。

初年度は1日の参加者200人強という小さなイベントでしたが、現在では1日1000人二日で2000人以上の参加者が集まり、運営スタッフも教職員50名・学生200名・地域住民の協力者80名と約330人とその規模は年々大きくなってきています。参加者からは、今年も楽しみにしていましたという声を掛けてもらう事が多く、地域に定着した大学の恒例行事に成長したと感じています。

大学が、ミニたまゆりを手掛けている目的は、大きく分けて2つあります。1つ目は、大学周辺に住む子どもたちへの地域貢献です。参加する子どもたちの声に耳を傾けると、「今年もミニたまゆりを楽しみにしていた」「年に1回ではなく、毎月開催して欲しい」「第1回目から6年連続で来ています」などミニたまゆりに対するポジティブな感想が数多く聞かれます。また、保護者の感想として、「子どもの頑張る姿に驚きました」「仕事やお金の大切さを理解してくれたようです」といった子どもの成長を感じる感想がありミニたまゆりの活動が、地域の人々に良いイメージで受け入れられている事が判ります。

2つ目の目的は参加する学生への教育活動です。実行委員の学生を中心として運営されるミニたまゆりの活動は、学生の目的意識・自分で考え行動する力・コミュニケーション能力を養う上で非常に優れた教材になっていると考えています。事実、実行委員として参加してくれた学生の成長は目覚ましく、昨年度とは見違えるほどの能力の向上が見られます。

上記の目的を達成するために、実行委員・大学スタッフ・地域の協力者など、多くの方々の協力を得てきました。今回のミニたまゆりが成功に終わったのも、これら協力者の1年間の活動の成果です。最後になりましたが、ご尽力をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

田園調布学園大学
ミニたまゆり実行委員会 教職員代表
番匠 一雅

ミニたまゆりの沿革

第1回 2005年11月

学園祭と同時開催

酒井ゼミの学生と数人の教員で運営

2日間で500人の参加

第2回 2006年8月

4日間で2000人の来場者

消防署・警察署・地域通貨たま・市民

プールなどの協力を得る

第3回 2008年3月

3日間で3000人の来場者

川崎市阿部市長が視察に訪れる。以後

毎年ミニたまゆりに参加している

第4回 2009年2月

2日間で2000人の来場者

地域福祉学科1年の必修行事となる

川崎FMによるラジオPRを開始

第5回 2010年2月

地域交流センターが設立

同センターの担当行事となる

前日に大子ども会議を開催

人間福祉学部1年の必修授業となる

第6回 2011年2月

市議会が開催され市民の声から町の公

約が決まる

模擬裁判が開催される

テレビ神奈川で特集が放映される



ミニたまゆりとは？

「ミニたまゆり」はドイツのミニ・ミュンヘン子どものまちを参考に、川崎市麻生区にある田園調布学園大学が地域の子どものために開催するイベントです。ミニたまゆりに参加した子どもたちは、自分たちの力で町を運営します。町には、市役所・銀行などの公共施設、様々な製品を製作する工場や食事を提供するお店、ボーリング・射的などのゲームを楽しむための娯楽施設など様々なお店（仕事）が用意されており、子どもたちは自分の好きなお店で仕事に従事します。仕事を体験した子どもたちにはお給料が支払われ、税金を徴収し残ったお金で、買い物・食事・ゲームに参加するといったサービスを受けることができます。子どもたちは、このような町作り体験を通して労働の喜び、お金の大切さなど、社会のしくみを楽しみながら学びます。

ミニたまゆりの成り立ち

福祉の専門大学として開学した田園調布学園大学の酒井教授がゼミナール活動の延長として2005年11月に学園祭のイベントとして開催したのが、ミニたまゆりの始まりでした。2005年2月に酒井先生はドイツミュンヘン市で開催されているミニ・ミュンヘンの活動を知り、深く感銘を受け、この活動を大学で展開する事でプロジェクトマネジメントの学習教材として学生への教育効果が期待できると考えるようになりました。その考えを実践するために何人かの教員の協力者を得て小規模ながらイベントを実現させることに成功しました。



第6回 ミニたまゆりの概要

開催期間	平成23年2月12日（土）・13日（日）
開催時間	10：00～16：00
場 所	田園調布学園大学 3・4・5号館
対象年齢	5～15歳（小学校未就学児は付添いが必要）
参加費用	300円（二日間有効）
来場者数	のべ2000人
テーマ	笑顔があふれる楽しい町『ミニたまゆり』

子ども会議の概要

第1回 10月	ミニたまゆりの説明
第2回 11月	お店の種類を考える、町のキャッチフレーズを考える
第3回 12月	仕事の内容を考える、ユリーのデザインを考える
第4回 1月	町のルールを考える
第5回 2月	看板・在庫の製作、仕事のリハーサル

ミニたまゆりのキャラクター ミニ太君とマユリちゃん

ミニたまゆりから二人のかわいいキャラクターが生まれました。これから二人にはミニたまゆりを盛り上げていくために、様々なシーンで活躍してもらいます。

ミニ太君 9才

元気な男の子
正義感が強いが、たまに暴走する事も・・・
少しオッチョコチョイ



マユリちゃん 11才

おしゃれ大好き女の子
しっかり者のお姉さん
ミニ太君のプレーキ役



第6回 ミニたまゆり運営組織

ミニたまゆりの協力者・協力団体

ボランティア学生（203名）

本学の間人福祉学部1年生の必修科目である福祉マインド実践講座の必修ボランティア活動としてミニたまゆりに参加。子ども会議に2回・イベント本番はいずれか1日出席する事が義務づけられています。

実行委員会（約20名）

上記のボランティア学生の中から有志が集まった実行部隊。9月以降毎週会議を行い、計画の立案や子ども会議の準備、司会進行、本番に向けた用意など様々な作業を行います。

大学教職員スタッフ（約50名）

有志が集まった大学教員と事務職員のスタッフ。主に学生のサポートと子どもたちの見守りや予算の管理・物品の購入などの裏方作業を行います。

キッズリーダー（子ども会議参加者174）・子ども市長（10人）

子ども会議に参加をして、新しい町のルールやお店を考えたり、料理を作る練習やお店の接客の練習・イベントに必要な看板や飾り付けの作成といった準備を行います。ミニたまゆり当日では、各お店の店長として働きます。キッズリーダーは、自分が学んだ事を、別の子どもたちに指導する等、子どもたちのリーダーとして活動します。

地域住民ボランティア（市民登録84人）

ミニたまゆり当日に、各お店の見守りや、公共施設（市民登録所・銀行・税務署など）の仕事のサポートを担当します。

川崎市リサイクルセンター（紙すき）

川崎市リサイクルセンターの方から紙すきについて学生スタッフが事前に指導を受け、ミニたまゆり当日に川崎市リサイクルセンターの方とスタッフ学生が子どもたちに紙すきの方法を指導しながら、紙すきを体験してもらいました。

社会福祉法人はぐるま会（喫茶店）

ミニたまゆり当日に、はぐるま会のスタッフと利用者の皆さんで焼き芋・コーヒー・紅茶の販売を行いました。

麻生総合高校（新聞社・テレビ局）

麻生総合高校の生徒がボランティアとして参加。新聞社とテレビ局で働く子どもたちが撮影した写真やインタビュー記事を麻生高校の生徒がパソコンを使って編集し新聞やテレビ番組を作成しました。

地域通貨たま運営委員会（たま）

ミニたまゆりで余ったユリーは地域通貨「たま」と交換することができます。地域通貨「たま」とは、川崎市多摩区で100たま100円として生花店や飲食店、衣料店など10数店舗で買い物の際に代金の一部を支払うことができたり、各種の特別優待を受けられます。ミニたまゆり2日目に地域通貨たま運営委員会が地域通貨「たま」とユリーを交換できる交換所を設置しました。

ヨネッティー王禅寺（プール券）

ミニたまゆりで余ったユリーは、100ユリー100円としてヨネッティー王禅寺のプール券と交換することができます。ミニたまゆり2日目にユリーとプール券を交換できる交換所を設置しました。

川崎市教育委員会

ミニたまゆりに協賛していただきました。各小学校との連携等を中心にミニたまゆりの準備から当日の運営に至るまで、多大なるご支援ご協力を頂きました。

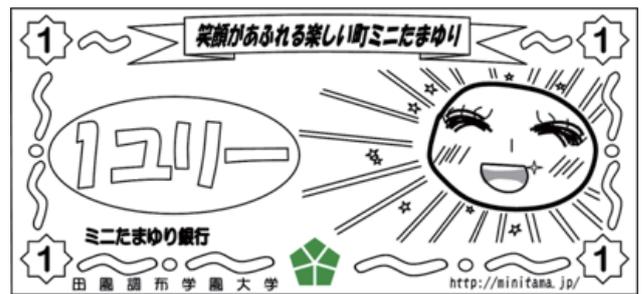
ミニたまゆりの通貨「ユリー」

ミニたまゆりの町の中で買い物をするには、「ユリー」という単位の地域通貨を利用します。1時間お仕事をすると、銀行で8ユリーの給料が支払われます。銀行の隣にある税務署で税金として4ユリーを納めた後、残った4ユリーを買い物や遊びに使います。

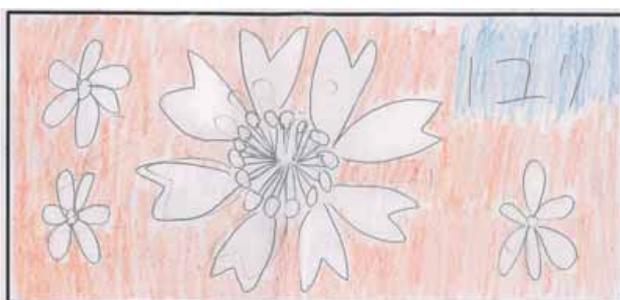
今年のユリーのデザインは、子ども会議の参加者から募集したイラストを元に作成しています。子ども達の応募作品から、次の3つの作品が選ばれ、これらの作品を元に大学生の実行委員がユリーのデザインを作成しました。



奈良 明日香ちゃん



高村 美緒ちゃん



伊藤 大賀くん



ミニたまゆりの税率について

ミニたまゆりの税率は、なんと50%！参加者のアンケートを見ると、多くの方々から税金が高すぎるとの意見をいただいています。しかし、第1回目から1時間働いて手元に残るお金が4ユリーという金額は一切変わっていません。第1回のミニたまゆりでは、1時間6ユリーと公表していましたが、実際に銀行で支払われる金額は2ユリーの税金を差し引いた4ユリーでした。第2回目では税金を納めるリアルな体験をさせたいという事で、1時間6ユリーを支払い、税務署で33%の税金(2ユリー)を納めるようにしましたが、小学校低学年には33%の税金を計算するのが難しく、税務署でのトラブルが発生しました。これらのトラブルを解消するために、1時間8ユリーの給与を支払い、その半分を税務署に収めるという今の方法が定着したのです。

各グループの紹介

グループ名	内 容	店舗名
<p>公共</p> 	<p>町の住民になるための市民登録や職業案内・銀行などの市民の窓口になる施設が用意されています。その他にも、市役所・警察・清掃局など市民の生活を支え、暮らしやすい町を作るための仕事がたくさん用意されています。公共の仕事で支払われる給料は、税務署で集めた税金から支払われます。</p>	<p>市民登録・職業案内・カード返却・銀行・税務署・テレビ局・新聞社・市役所・工務店・清掃局・警察・道案内・図書館</p>
<p>製作</p> 	<p>子ども達の力でプラバンやパズル・ミサンガなどの小物を製作します。製作物は隣に併設された販売所で販売されます。自分で作成した小物を持って帰る事は出来ませんが、販売所で自分の作品をユリーで購入することができます。</p>	<p>紙すき・小物入れ・しおり・パズル・ちぎりえ・エコバック・糸電話・びゅんびゅんゴマ・紙ビーズ・サングラス・ミサンガ・ブーメラン・プラバン・スライム・ネイルサロン・福祉考房・販売店</p>
<p>遊び</p> 	<p>自分で稼いだユリーを使って、色々な遊びが体験できる店舗がそろっています。ゲームなどで遊んだあとは、その得点に応じて駄菓子などの景品がもらえます。射的の鉄砲や輪投げの輪・魚釣りの魚のイラストなど、店舗で必要な部材は、子どもたちが自分の力で用意します。</p>	<p>ヨーヨー釣り・スーパーボールすくい・魚釣り・ボーリング・迷路・モグラたたき・輪投げ・射的・チョコつまみ・的あて・缶つま・ストラックアウト</p>
<p>食事・デザート</p> 	<p>子ども達が用意した食事やデザートを販売する店舗が多数用意されています。衛生面を考え、多くの店舗では、学生食堂で調理済みの食材を子どもが盛り付けしてお客さんに提供しています。また、唯一保護者の方が楽しめるお店として喫茶店を用意し、アイスティールや焼き芋を100円で販売しました。</p>	<p>フルーツポンチ・綿菓子・飲み物・おにぎり・ポップコーン・たこ焼き・カレー・うどん・中華まん・トン汁・フライドポテト・フランクフルト・焼そば・喫茶店・クレープ・タイ焼き・アイス・ケーキ・ドーナツ・駄菓子</p>
<p>イベント</p> 	<p>食堂に設置されたステージで定期的に行われるゲームや発表会などのイベントです。今年度の新しいイベントとして市議会が開催され、子ども市長など参加した子どもたちから町を良くするための意見が多数寄せられました。その意見の中から、急遽宝くじのイベントを開催することになり、二日目の午後に宝くじの販売を行いました。</p>	<p>音楽演奏・市長選挙・模擬裁判・市議会・手話・紙芝居・じゃんけん大会・〇×クイズ・ビンゴ大会・車いす体験・宝くじ・カラオケ大会</p>

公共グループの報告 担当：保坂 匠

フロア長の感想

公共グループは、子どもが町の生活をする重要な拠点となります。子どもたちの混乱を招かないように、私たち学生がしっかりと連携し、できるだけ判りやすいよう配慮しました。そのおかげで、子どもたちは戸惑いながらも、やりがいを感じながら仕事をしていました。

公共の仕事は、銀行や税務署において、大きなお金（ユリー）が行き交います。高学年を中心にお金の管理や計算を任せるようにしましたが、楽しそうにユリーを扱っている子どもたちの笑顔が印象に残りました。



公共グループのお仕事一覧

市民登録	登録料金（300円）を集める	テレビ局	取材したビデオを編集し放映する
職業案内	仕事を紹介する	新聞社	取材した記事や写真を編集し新聞を発行する
カード返却	仕事カードを回収する	工務店	壊れた看板や店舗を修理する
銀行	子どもに給与（ユリー）を支払う	清掃局	町をきれいにする
税務署	給与の50%を税金として支払う	図書館	保護者向け・子ども向けの本や雑誌を用意
市役所	様々な市民の要望に応える	警察署	落とし物や迷子の対応 町の安全を守る

警察署

子どもたちに、大変人気がある仕事です。廊下を走っている子どもを注意したり、落とし物や迷子の対応など町の平和のためによく働いてくれました。おかげで、大きなトラブルもなく安全に町の運営できました。



新聞社

麻生総合高校の高校生がボランティアで参加し、子どもたちの指導を行ってくれました。子ども記者が集めた事件を新聞にまとめ、二日間で12部の新聞を発行しました。子どもたちは自分たちが書いた記事が新聞になったのを見て嬉しそうにしていました。



市民登録

朝10時のオープン時には何百人の児童が市民登録に訪れ長蛇の列を作ります。現金を扱う受付作業には大学周辺に住む地域住民の方々がボランティアとして担当していただいています。

制作グループの報告 担当：鴨志田 友

フロア長の感想

製作のグループでは、子どもたちが自分で使うのではなく販売することを目的として製作を行います。当日は、用意していた物品が途中足りなくなったり、子どもたちに作業してもらうには難しいものもあり準備不足を感じることもありました。ですがそれ以外の大きなトラブルはなく、一生懸命説明を聞きながら作業を行う子どもたちの姿が多く見受けられました。

製作の仕事は最後出来あがったときにみんなとても喜んでくれるので私も楽しく作業することができました。



制作グループのお仕事一覧

ネイルサロン	マニキュアやラメをお客さんに塗る	プラバン	プラバンに絵を描いてオープンで焼く
ミサンガ	紐を結んでミサンガを作る	紙ビーズ	広告などを切って丸める
糸電話	紙コップに糸を通して作る	サングラス	厚紙を好きな形に切って、セロハンをはる
小物入れ	牛乳パックに飾りつけをする	ブーメラン	厚紙を型に沿って切り、好きな絵を描く
パズル	牛乳パックを切ってピースを作る	しおり	好きな絵を描き、穴に紐を通す
スライム	液体を混ぜてスライムを作る	エコバック	紙を折ってバッグを作る
紙すき	材料が解けた水をすくってはがきを作る	販売店	お店で作ったものを売る

ネイルサロン

お客さんに塗りたいマニキュアやラメを決めてもらい、きれいに塗ってあげてお仕事をしてもらいました。女の子に人気があり、仕事が終わった後にお客さんとしてネイルをしにきている子どもも多く見られました。



小物入れ

牛乳パックを切ったところをビニールテープで留め、折り紙やビーズで飾り付ける作業をもらいました。子どもたちは一つ一つこだわって作っていて個性的な作品が多くできました。楽しそうに製作していました。



紙すき

川崎市のリサイクルセンターのスタッフが機材の用意や子どもへの指導をしてくれました。落ち葉や色紙を重ねて作った作品はどれも個性的で素敵なハガキがたくさん出来上がりました。



遊びグループの報告 担当：松岡 昌弘

フロア長の感想

遊びのグループで大変だったのは、景品のお菓子の調達です。ゲームの内容を簡単にすると、1度に何個も景品を持っていく子どもがいて用意していた景品がなくなってしまうので、何回も調達に行く事になりました。小学1年生から中学生まで色んな子どもたちが参加しているので、程よいゲームの難易度に調整するのが難しかったです。子どもたちは、しっかりと接客をされていて、お客さんと一緒に遊ぶような感覚でボーリングの倒れたピンを数えたり、魚釣りで釣れた景品をあげたりしていました。



遊びグループのお仕事一覧

ヨーヨー釣り	縁日でおなじみのゲーム	モグラたたき	穴から出てくる人形をハンマーで叩く
スーパーボールすくい	スーパーボールをポイですくう	輪投げ	ペットボトルの的に輪を投げ入れる
魚釣り	制限時間内に何匹の魚を釣り上げるか	射的	手作りの割り箸鉄砲で輪ゴムを飛ばす
的あて	ボールを投げて的を倒すゲーム	チョコつまみ	マーブルチョコを箸でつかんで皿に移す
ボーリング	ペットボトルのピンをボールで倒す	缶つまみ	ジュースの缶を自分の身長より高く積む
迷路	段ボールで作った迷路から脱出	ストラックアウト	コントロールを競うおなじみのゲーム

モグラたたき

穴から出てくるモグラをピコピコハンマーでたたくゲーム。モグラ役は両手に人形をつけた店員さん。タイミングよく人形を穴から突き出して頑張っていました。



魚釣り

割り箸の釣り竿とクリップで作った針で魚を釣り上げるゲームです。魚はボール紙に魚の絵を描いて切り抜いたもので、子ども会議の時に、参加した子どもたちが自分達で作り上げたものです。



ボーリング

ペットボトルのピンを並べ、ボールを転がして倒します。倒れた本数で景品の駄菓子の数がかかりますが、上級生には簡単なのでペットボトルに水を入れて、倒れにくくして調整しました。

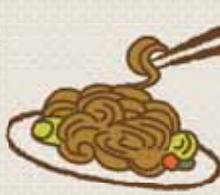


食事グループの報告 担当：矢内 直人

フロア長の感想

食事グループの運営で注意したことは、衛生面と安全面です。食中毒などの危険がないように、食品は極力大学側で用意して、子どもたちにはお皿に盛りつける、電子レンジで温めるなどの簡単な作業をやらしてもらいました。それでも、自分が販売した食べ物をお客さんが美味しそうに食べている姿を見ると、子どもたちはとても喜んでいました。

ホットプレートなどで火傷する危険性があったので学生スタッフが子どもたちの様子に気を配っていましたが大きな怪我がなく安心しました。電子レンジを多用するため、ブレーカーが落ちるといったトラブルがありましたが、電源系統を分散することで改善しました。



食事グループのお仕事一覧

おにぎり	ご飯をラップで包みふりかけをかける	豚汁	食堂で用意した豚汁をお椀によそう
ポップコーン	機械で作ったポップコーンを販売	フライドポテト	調理済みのポテトを容器に盛りつける
たこ焼き	冷凍たこ焼きを電子レンジで調理	フランクフルト	ホットプレートで調理する
カレー	ご飯とカレーをお皿に盛りつける	焼きそば	調理済みの焼きそばをパックにつめる
うどん	湯煎したうどんに、だし汁を注ぐ	喫茶店	コーヒーと焼き芋の販売
中華まん	冷凍の中華まんを電子レンジで調理	飲み物	ジュースを紙コップに注ぎ販売する

おにぎり

おにぎりの店では、学生スタッフと子どもたちが協力して仕事をしていました。おにぎりが売れていなかった時は、子どもたちの一人が絵を描いたほうが売れるんじゃないかと提案し、みんなでおにぎりに絵を描いていました。



喫茶店

社会福祉法人はぐるまの会のスタッフと知的障がい児の利用者が出張してコーヒーと焼き芋の販売を行いました。この店舗のみ現金で保護者向けに販売しましたが、保護者が唯一購入できる食品という事で大変好評でした。



焼きそば

調理の難しさや衛生面から、学生食堂のスタッフが調理した焼きそばをホットプレートで暖めなおしお客さんに提供しています。とても人気があり、店舗の前に行列ができるほどでした。



デザートグループの報告 担当：中根 彩奈

フロア長の感想

デザートのグループでは、クレープや綿菓子などのデザート子どもたちが製作し、販売をしていました。デザート販売した場所が、ミニたまゆりが行われている中心の四号館から離れていたため、午前中のお客さんが少なく、仕事に飽きてしまう子どもが多かったです。一方で、終了間際になるとユリーの消費のために子どもが集中しました。二日目終了間際に食堂のほうにお店を移転しましたが、移転の際の誘導が難しいという問題がありました。子どもたちがそれぞれ商品を買ってもらおうと意見を出し合っていたのが印象に残りました。



デザートグループのお仕事一覧

クレープ	市販のクレープ生地に子どもたちがフルーツ缶詰などをトッピング
たい焼き	冷凍たい焼きを電子レンジで解凍し、一個単位で販売
アイスクリーム	市販のアイスを容器に盛りつけチョコスプレーなどでトッピング
ケーキ	市販のロールケーキを輪切りにしてお皿に盛りつけチョコソースなどをトッピング
ドーナツ	市販のヤングドーナツにチョコソースをトッピングして販売
駄菓子	駄菓子の袋詰めと大き目の駄菓子をバラで販売
フルーツポンチ	サイダーにフルーツ缶詰の果実を入れて販売
綿菓子	縁日などで利用する専用の機械で綿菓子を作り販売

クレープ

市販のクレープ生地に子どもたちがそれぞれ、トッピングを行い、買いに来たお客さんに気に入ったものを買ってもらいました。売り子をするよりも、トッピングをするほうが人気がありました。



フルーツポンチ

フルーツ缶詰の果物にサイダーを注いで調理します。調理は簡単ですが本格的な味がします。クレープと同じようにお客さんの注文を聞いて材料を盛りつける子どもたちがとても楽しそうでした。



綿菓子

綿菓子の機械を借り、屋台と同じように作りました。ざらめの分量や形を整えるなど、難しいところもありましたが、子どもたちがコツをつかんでいき、市販のものに近づけることができました。



イベントグループの報告 担当：中島 淳

フロア長の感想

子どもたちの町を盛りあげるために、たくさんのイベントを用意しました。イベントに参加した子どもたちは、お菓子などの景品をもらうと、とても喜んでいました。

宝くじなど当選者にユリーを直接支払うイベントでは、高額なユリーを子どもに渡すのは教育上良くないと考え、金額の設定に悩みましたが、実際の宝くじなどを参考に、売り上げ金額の一部を賞金にするという事で大きなトラブルもなく子どもたちも喜んでいました。全体を通して、大成功なイベントだったと思います。



場所:食堂ステージ

12日(土曜)	じゃんけん大会	じゃんけんで勝ち残った5名にお菓子をプレゼント。
	○×クイズ	クイズのお題をスタッフが発表し○×に立って分かれてもらう。
	ビンゴ大会	ビンゴになった人に、豪華賞品のおやつをプレゼント。
13日(日曜)	宝くじ	食堂ステージにて、1～40番までの札を買ってもらう。
	○×クイズ	クイズのお題をスタッフが発表し ×に立って分かれてもらう。
	ビンゴ大会	ビンゴになった人に、豪華賞品のおやつをプレゼント。

じゃんけん大会

参加者は、学生スタッフとじゃんけんをして、勝ち残った人に1ポイントをあげるルールです。5回戦行い、ポイントの多い順で5名の参加者に豪華賞品を差し上げるイベントを行いました。

○×クイズ

スタッフが問題を出題し、床にテープで作った○と×の領域に子どもたちに分かれてもらい正解数を競うイベントを行いました。今回は、模擬裁判のイベントとコラボし、模擬裁判に結びつけるストーリーで宣伝を行いました。クイズ終了後、正解数の多い順に10人の子どもたちに景品としてお菓子を差し上げました。また、求人5名を雇い正解した子どもたちに正解カードを渡すお仕事をやってもらいました。

宝くじ

食堂ステージにて、先着40人に1～40番のチケットを1ユリーで販売しました。当選者の番号を市役所に掲示し当選者には豪華景品が配られました。

ビンゴ大会

先着60名にビンゴカードを1ユリーで販売しビンゴ大会を行いました。上位3名の子どもに豪華賞品とユリーがプレゼントされました。ビンゴにならずに残ってしまった子どもたちにも参加賞としてお菓子がふるまわれました。子どもたちの仕事として、出た数字をスタッフに伝えるお仕事を1人、出た数字をボードに掲示するお仕事を1人、ビンゴになった人の番号を確認し、賞品のお菓子を渡し、カードを回収するお仕事を3人で行いました。

模擬裁判・市議会の報告 担当：鈴木 悠平

フロア長の感想

模擬裁判

裁判の知識のない子どもたちのみで裁判を進行してもらうのは難しいと考え、子どもたちには裁判員として有罪か無罪かの判決を体験してもらうことにしました。弁護士・裁判官などの役割は私たち学生が担当する事にしました。犯人が有罪か無罪か意見が別れるようにしたかったため、犯人がただ暴行を行ったのではなく、その犯人は脅されて暴行を行って犯人が有罪とは言えないシナリオを作成しました。さらに子どもたちにも解りやすいように、近年導入された裁判員制度の仕組みが書かれたイラストや被告人に送られた脅迫文をプロジェクターで写し、わかりやすく理解してもらえるように準備をしました。

当日の子どもたちの様子としては、内容が若干難しかったのか説明の時は難しそうなお顔を浮かべていましたが判決の時は自分の意見をしっかりと持って堂々と発言をしていました。判決の場面では観客の人の意見も聞き会場全体で参加するような裁判にしました。

当初、裁判に興味を持っている子は少なく、あまり人数が集まらないのではないかと考えていましたが想像以上に子どもが集まり驚きました。当日裁判で裁かれる事件はミニたまゆりの会場で実際に起きた〇×問題のイベントの最中にミニたまレッドをミニたまブラックが殴りかかった事件を使ったためリアリティの高い裁判をできたと思います。



市議会

子ども市長や一般の参加者と共に、「笑顔があふれる楽しい町」というキャッチフレーズをヒントにして「子どもの町を笑顔でいっぱいにするには、どうすればいいか？」という議題で、話し合いをしました。はじめは中々意見が出ませんでした。司会者が「みんなはどんなときに笑顔になるのかな？」と問いかけたところ、「ほめられたとき」「お礼を言われたとき」「ユリーをもらえたとき」「おいしいものを食べたとき」など、活発に意見が発言されるようになり、最終的に次のような公約が決まりました。

- ・「ありがとう」をたくさん言おう。
- ・良い事を見かけたらたくさんほめてあげよう。
- ・おいしいお店を見つけたらみんなに教えてあげよう。
- ・宝くじの開催（13日11時 販売開始）。
- ・まちをきれいにしよう。ゴミをすてないで！
- ・いじめ、仲間外れをしない。
- ・人のものを盗まない。

この結果、急遽二日目に宝くじのイベントが開催される事になり、当選者にユリーが贈呈されました。



川崎市市長の訪問 担当：番匠 一雅

川崎市 阿部孝夫市長のミニたまゆり訪問

第3回のミニたまゆりにおいて田園調布学園大学の所在地である川崎市の阿部孝夫市長にミニたまゆりへの視察をお誘いしたところ快く了承していただき、それ以来毎年ミニたまゆりに訪問していただいています。

今年は、初の試みとして阿部市長と子ども市長の対談の場を設け、子ども市長が作成した町の公約を阿部市長に披露して感想を伺ったり、子ども市長の質問に答えていただきました。

「市長は普段どんな仕事をしてるんですか？」という質問に、「市民のために、お金を何に使ったら良いか考えたり、町の問題を解決する方法を考えたりしてます。何かあったら市を代表して人に謝るのも市長の仕事かな」と答えてくれました。「阿部市長は、来年のミニたまゆりにも来てくれますか？」という質問には、「もちろん、来年も来ますよ」と答えていただきました。

その後、子ども市長の案内で子どもの町を視察した阿部市長は、職業案内所で綿菓子の仕事カードを受け取り、綿菓子作りの仕事を体験しました。会場の移動中に、新聞社の子ども記者からインタビューの申し出がありましたが、そのインタビューの内容は、急いで編集され最新号の新聞が、お土産として市長にプレゼントされました。



子ども会議とは

「ミニたまゆり」の実現に向けて、月に1回のペースで地域の子どもたちを大学に招いて「子ども会議」を開催しています。子ども会議では、大学生や地域の大人スタッフが司会者となり、子どもたちと一緒に新しい町のルールやお店を考えたり、料理を作る練習やお店の接客の練習・イベントに必要なカンバンや飾り付けの作成といった準備を行います。

毎回50人以上の子どもたちが参加し、子ども独自の斬新なアイデアを発想してくれます。

子ども会議に参加して、料理や接客の方法を覚えた子どもたちは、キッズリーダーと呼ばれ、「ミニたまゆり」本番では、子どもたちのリーダーとして活躍し、自分たちが考えたルールや学んだ事を、別の子どもたちに指導します。

子ども会議に参加すると、1日につき4ユリーの報酬が支払われ、イベント当日は一般の児童より1時間早く会場に入る事ができます。これは、キッズリーダーを募集するための報酬という意味のほかに、オープン直後は町にユリーが流通していないので消費者が不在となり、店を開いてもお客が集まらないという問題や、オープン直前の店舗準備のための人材確保という意味を持っています。



子ども会議の効果



毎回の子ども会議の中には必ずワークショップの時間が設けられています。子どもたちに、議題を投げかけグループにわかれ議論し、そこで集まった意見は最後の発表の時間に子どもたちに発表してもらいます。子どもだけの集まりでは活発な意見が得られませんが、ファシリテーター役の学生がうまく誘導する事によって、子ども独自の自由な発想が生まれてゆきます。

発表会で良い意見が発言された場合、積極的に町の仕組みに取り入れ、次回の子ども会議で町の決定事項として大きく取り上げ、子どもたちに周知します。この経験を繰り返す事で、子ども会議に参加する児童は、自分たちの考えが町づくりに繋がる事を理解し、ミニたまゆりを自分たちの力で作り上げているという実感を得られるのです。

子ども会議で決定した事項としては、町のキャッチフレーズである「笑顔があふれる楽しい町」やユリーのデザイン、新しい店舗のアイデアなどがあります。

最後の子ども会議では、市長選挙を行い立候補者の中から10人の児童が子ども市長として選出されました。



当日の状況

台風のため、小学校の教育委員会から小学生を対象としたイベントの中止要請があり、HP上で中止のお知らせを行った。しかし、HPを見ていない子ども達が集まると予想されたため、来場者には簡単な説明の準備を行った。子ども会議の参加者には、1回につき4コリーがイベント当日に支払われる事になっていたため、来場者の連絡先を記録し、今回分のコリーを支払うことにした。

開始時間になると、予想以上の人数があつまり最終的に49名となり、当初簡単な説明で解散する予定でしたが1時間ほど子ども会議を行いました。

第1回 子ども会議

日時：2010年10月30日（土）
 場所：341教室
 司会：番匠
 目的：ミニたまゆりの説明
 グループワーク



時間割

- ・ミニたまゆりの説明・主催者のあいさつ
- ・ミニたまゆりの説明の上映・プリント配布
- ・昨年度のミニたまゆりの報告
- ・子ども会議の目的と内容の説明



宿題の説明

- ・仕事の一覧表から、やってみたい仕事を選ぶ
- ・仕事一覧表にない、新しい仕事のアイデアを考える。

司会者の感想

台風の中49人も子どもが集まったのは驚きでした。事前に電話にて問い合わせがあった方も多数おられたので、天気が良ければかなりの人数の方が参加されたと予想されます。49人中34人が過去にミニたまゆりに参加しており過去5回全て参加している子どもが2人いた事には驚きました。参加した子ども達にミニたまゆりの感想を聞いたところ、「すべて良かった」「仕事をするのが楽しい」など良い意見がたくさん聞かれました。逆に、良くなかったこと改善点を聞いたところ、「嫌なことが無かった」という意見が多く、子ども達の意見を引き出すのに苦労しましたが、税金が高すぎる、もっと開催日を増やしてほしいなどの意見を聞くことができました。

子ども会議に参加する子ども達は、ミニたまゆりを楽しみにしており、皆やる気がある子ども達でしたので、2回目以降の会議やイベント本番が楽しみになってきました。

第1回 子ども会議参加者の傾向

小学校名	参加人数	1回参加	2回参加	3回参加	4回参加	5回参加	経験者合計
長沢	11	4			6		10
東百合丘	14	4	1	3		2	10
西生田	5	1	3	1			5
百合丘	5	2		1			3
金程	1						0
王禅寺中央	3		1				1
麻生	2	1					1
その他	8	1	1	2			4
合計	49	13	6	7	6	2	34

当日の状況

前回は台風のために集まった子どもたちだけで行いましたが、今回からは通常どおりに学生ボランティアも参加しました。学生ボランティアは、グループに分かれて配置し、その内1人が学生グループリーダーとなってグループワークの進行役をします。

13:00に受付を開始し、子どもたちには名札に氏名、学校名、学年を記入してもらい、また、ミニたまゆり参加経験の有無を確認しました。

子どもたちのグループ分けは、1グループに体験者を混ぜること、同じ学年がかたまらないように配慮しました。1グループは5~6人で、10グループ設定しました。各グループには動物の名前を付けています。

13:30からスライドやビデオを用いてミニたまゆりや子ども会議の説明を行いました。その後14:00からは前回の宿題（人気があった仕事）を紹介しました。

14:30からは、グループごとに決められたテーマによって話し合いを行い、40分ほど話し合ったあとに、各グループの子どもに結果を発表してもらいました。

15:40から、次回の子ども会議の内容の説明と宿題（お仕事一覧を渡し、やってみたい仕事、新しい仕事を考える）を説明し、16時に終わりの挨拶をして終了となりました。

第2回 子ども会議

日時：2010年11月27日（土）

場所：241教室

司会：村井・小平

目的：町の仕組み、町のルールを話し合う



時間割

- ・ミニたまゆりの説明
- ・子ども会議の説明
- ・宿題（人気があった仕事）の紹介
- ・グループワーク



宿題の説明。

- ・仕事一覧を渡し、やってみたい仕事、新しい仕事を考える



司会者の感想

一つの教室の中で、子どもたちと約50人の学生ボランティアとでグループワークを行うので、グループ分けやグループワークの進行に混乱する場面もあるのではないかと心配していましたが、学生リーダーの誘導によって特に問題も起きずに進行できました。グループワークでは子どもたちからたくさんのアイデアが出され、各グループからの結果報告は予定していた時間をオーバーするほどでした。報告の最中に騒がしくなってしまうたり、時間が足りなくて各グループの報告を吟味したり、みんなで共有することが十分にできなかったという課題もありましたが、子どもたちは楽しく話し合いができていたようなので、今後の子ども会議にも期待が持てました。

第2回 子ども会議で話し合ったテーマ

いぬグループ	どんな町にしたいか
キツネグループ	やってはいけないこと
ねこグループ	やったほうがいいこと
ひよこグループ	どんなイベントを行いたいか
イルカグループ	今年の町のキャッチフレーズ
クジラグループ	子どもの町でできるエコについて考える
うまグループ	新しい食べ物屋さんアイデアを考える
しかグループ	工場で作る新しい商品を考える
うさぎグループ	公共の新しい仕事を考える
カンガルーグループ	新しい遊びの仕事を考える

当日の状況

当日は少々曇っていましたが、子ども会議にはたくさんのお子どもたちが参加してくれました。受付開始前に子ども会議のやる場所がわからないお子どもがいることを考え、バス停や事務室や食堂などに学生ボランティアを配置しました。

13:00に受付を開始して、受付を終了したお子どもたちを学生リーダーが中心に各グループのテーブルに誘導しました。

13:30からは第2回のお子ども会議の報告を中心にパワーポイントで読み上げて、各テーマで決めたことをお子どもたちに報告しつつ、今日行う事(仕事内容を考える)の説明とミニたまゆりのキャッチフレーズをお子どもたちの多数決によって決めました。

14:30からグループごとに決められた仕事の内容を考え、去年のマニュアルを参考にしながら新しい仕事の内容をお子どもたちと考えました。1時間ほどグループワークを行い、その後15:30から次回のお子ども会議でのやる内容の簡単な説明と宿題の説明(ユリーのデザイン)を行い、その後終わりの挨拶をして16:00に片付け・解散となり、無事に第3回お子ども会議を終えることができました。

第3回 子ども会議

日時：2010年12月18日(土)
場所：241教室
司会：矢内
目的：ミニたまキャッチコピーの決定
ミニたまゆり仕事の内容を考える
ユリーのデザインを考える

時間割

- ・前回の子ども会議の報告
- ・お子どもたちのアイデアの承認作業(拍手によって)
- ・今年のキャッチフレーズの多数決
- ・仕事の内容を考える



宿題の説明

- ・次回のお子ども会議までにユリーのデザインを考えてきてもらう。
- ・今までのとは違う、かわいいデザインを考えよう!

司会者の感想

今回のお子ども会議では仕事内容を決めることがテーマでしたが、自分が思っていた以上にお子どもたちが熱心に取り組んでおり、わからないことがあれば学生ボランティアの人に質問をしていて、学生とお子どもたちの間でふれあいながら取り組んでいる様子が印象に残りました。パワーポイントで説明しているとき少々騒がしくなる場面もありましたが。それでもお子ども同士の喧嘩などもなく、その他トラブルもなかったため、今回のお子ども会議は大成功に終わることが出来たと思います。

第3回 子ども会議での成果

町のキャッチフレーズを考えよう

- ①みんな親切、助け合い。
- ②楽しく学び、仲よく遊ぶ。
- ③楽しい笑顔があふれる町。



前回の宿題で考えたミニたまゆりのキャッチコピー。上記の3つの候補から、楽しい笑顔があふれる町「ミニたまゆり」というキャッチコピーが決まりました。

今日の作業は・・・仕事の内容を考える

- ・各グループのテーブルには、お仕事マニュアルが置いてあります。
- ・新しいお仕事のマニュアルは、空白になっています。
- ・新しいお仕事の内容を、お兄さん・お姉さんと一緒に考えましょう。
- ・去年のマニュアルの内容も確認してみよう。

各グループに別れ、仕事の内容を考えました。最後に考えた内容を、グループの代表が皆に発表してくれました。

新しいユリーのデザインを考えよう!



2010年

2011年



新しいユリーのデザインを考えました。お子どもたちが考えたアイデアを元に、学生実行委員がユリーの最終デザインを作成します。

当日の状況

当日は受付前に会場の外にあふれかえるほどの多くの子どもたちが参加してくれました。13:00からの受付を済ませ、学生リーダー、参加した一般学生が各グループのテーブルに誘導しました。13:30からは前回の子ども会議で決まったミニたまのキャッチフレーズを報告して、今日行う仕事(前回のミニたまで考えた仕事の準備と接客の練習)を説明しました。

14:00から各グループが作業を開始しました。去年の仕事のマニュアルをもとに販売する物の在庫作成、食材の準備、ゲームの準備をしました。10分の休憩をはさみながら、各グループが在庫作成、準備を終わらせた後、接客の練習を始めました。一通り作業が終わったら、15:30から次回のミニたまで行うことの簡単な説明を行い16:00に解散、片付けを行い、第4回子ども会議は問題もなく、終了しました。

第4回 子ども会議

日時：2011年1月15日(土)
場所：241教室・341教室
司会：山本
目的：今年のキャッチコピーの発表
仕事のリハーサル
在庫の作成

今年のキャッチコピー
『笑顔があふれる楽しい町「ミニたまゆり」』

司会者の感想

今回の子ども会議では在庫作成、食材の準備、ゲームの準備をしましたが、子どもたちが、私たち学生以上に熱心に取り組んでいて、とても印象的でした。また、学生と子どもたちが協力しあって、笑顔で作業をしていた姿も見受けられました。接客の練習をしていた時の子どもたちは少し接客の声掛けがぎこちなかったのですが、一生懸命に練習をしていたのが、印象に残りました。作業の説明の時は少しだけ騒がしくなりましたが、トラブルもなくみんな楽しそうでした。

第4回 子ども会議で行ったリハーサル内容

しか・クジラグループ	糸電話・しおり・パズル
うさぎ・キツネグループ	ぶんぶんコマ・サングラス・プラバン
ねこ・カンガルーグループ	チョコつかみ、ダーツ、おかし釣り
いるか・うまグループ	おにぎり・ポップコーン・ケーキ
ひよこグループ	車いす体験・ケンケンリレー
いぬグループ	模擬裁判・じゃんけん大会



当日の状況

直前にイベント本番と子ども会議の告知チラシを配布した事もあり、今までの子ども会議で最大となる138人の児童が参加してくれました。全5回の参加児童を数えると、174名のべ345名の児童が参加してくれた事になります。

はじめに241教室にて今年のユリーのデザインを発表し、その後市長選挙を行いました。市長選挙では6才から12才の10人の児童が子ども市長として選出されました。

休憩後341教室と241教室に分かれ看板の作成や、イベント本番で利用する遊びの道具・販売店で売するための商品の在庫の作成を行いました。ボランティアの学生を含めると参加者は200人を超え、非常に多くの方が作業に取り組んだおかげで、本番直前の制作作業が予想以上にはかどりました。

今回選出された子ども市長は別室に移動し、本番で子どもたちに見せるための、ミニたまゆりのルール説明のビデオ撮影に参加してもらいました。撮影は順調に進みましたが、すべての作業が終了したのは午後6時を過ぎており早速子ども市長に活躍してもらおう事になりました。

第5回 子ども会議

日時：2011年2月5日（土）
 場所：241教室341教室
 司会：三浦
 目的：今年のユリーのデザインの発表
 看板作成
 在庫の作成
 市長選挙
 ミニたまゆり説明ビデオの作成

今年のユリーのデザイン



子ども会議の成果

全5回の子ども会議の総参加人数はのべ345名となり、実際の参加人数174名の内、本番に来場したのが137名で合計1380ユリーの報酬を支払いました。参加者のアイデアにより、町のキャッチフレーズやユリーのデザイン、仕事の種類と内容、町のルールを決められた他に、第5回目では大量の在庫を作成する事ができました。そのおかげでイベント本番ではスムーズに会場をオープンさせ店舗を稼働させる事ができたのだと考えています。

また、子ども会議から選出された子ども市長も非常にやる気のある児童が集まっており、本番当日多くのイベントで活躍してくれました。



10人の子ども市長

各子ども会議での参加人数

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	総合計	実人数	本番参加者
47	57	53	50	138	345	174	137

子ども市長のお仕事

子ども市長のスケジュール



10:00 開会式でのテープカット



12:00 市議会への参加



13:30 川崎市阿部市長と会談



15:00 テレビ神奈川のインタビュー

その他にも、模擬裁判の裁判員や閉会式、ミニたまゆりの解説ビデオの撮影など、多くの仕事に携わってもらいました。

子ども市長インタビュー

村井美月市長（9才）



子ども市長をやって良かった事は、川崎市の市長とお会いしてお話してきたことです。町の中には色々な人がいて、色々な考え方があるのがわかりました。人の話を良く聞くことが大事だと学びました。

次のミニたまゆりで子ども市長をやる事ができたらルール違反を平気でする人が結構いたので、ルールを守ることの大切さをどうしたらわかってもらえるのか考えたいです。

石黒虎太郎市長（12才）



「ミニたまゆり」は初参加での市長でしたが、すごくやりがいがある仕事でしたしイベント自体もとても楽しかったです。市議会など本格的な会議に参加するのは初めての経験で緊張しましたが、自分たちが決めたルールやイベントが翌日に徐々に実現されていくのを見て、自分たちの仕事は成功したなと感じました。

次のミニたまゆりに参加する事ができたら、その場にいるだけで幸せな気分になれるような、安全で楽しい町づくりがしたいと思います。

番匠将貴市長（6才）



市長の仕事で面白かったのは、本物の大人の市長に会えた事と、市議会で自分の意見を言えた事です。来年のミニたまゆりでも、絶対に子ども市長をやりたいとおもいます。

次のミニたまゆりで子ども市長になれば、面白いゲームや景品がもらえるようなイベントをもっともっと増やして、もっと楽しい町にしていきたいです。

アンケート集計結果 子ども

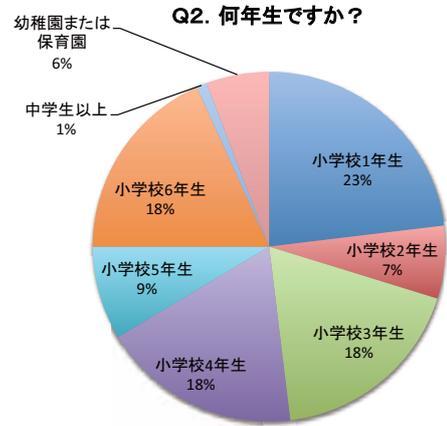
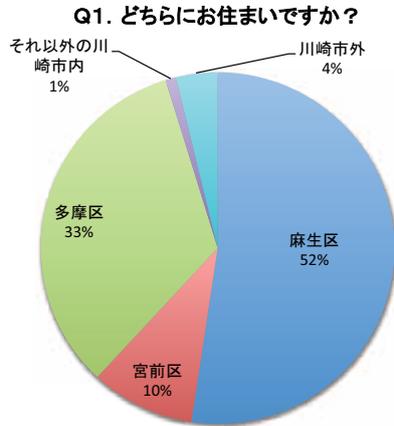
ミニたまゆり二日目の午後行ったアンケートの集計結果です。

アンケートの回収方法

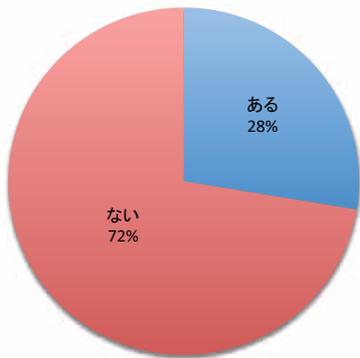
アンケート用紙に記入した子どもに駄菓子を配布

場所：市役所前

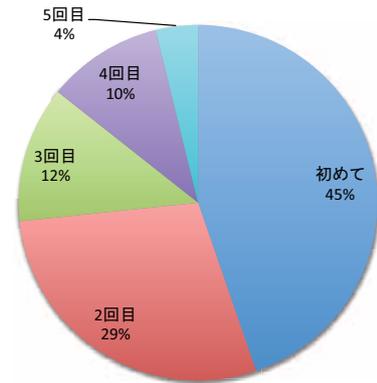
回答数：106



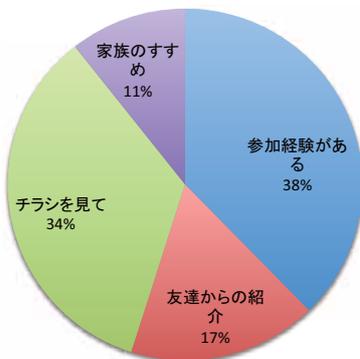
Q. 3子ども会議に参加したことがありますか？



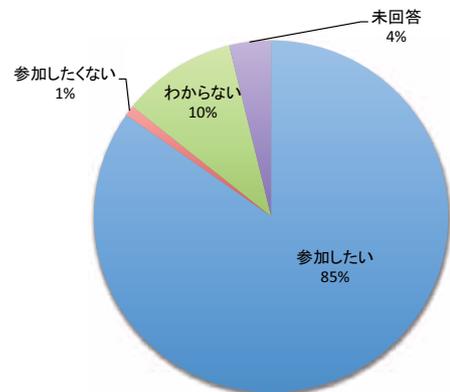
Q4. 今年で何回目の参加ですか？



Q5. 参加したきっかけは？



Q6. 来年も参加したいですか？



楽しかった仕事

1位	市役所 (13)
2位	警察署 (9)
3位	スーパーボール (8)
4位	クレープ (6)
	フライドポテト (6)
6位	ケーキ (5)
	綿菓子 (5)
	プラバン (5)
	テレビ局 (5)
	銀行 (5)
	迷路 (5)
	射的 (5)
	ケーキ (5)

将来の夢

1位	学校の先生 (6)
2位	考え中 (5)
	マンガ家 (5)
4位	看護師 (4)
5位	パティシエ (3)
	ファッションデザイナー (3)
	プロ野球選手 (3)
8位	アナウンサー (2)
	お花屋 (2)
	銀行員 (2)
	サッカー選手 (2)
	大工 (2)
	電車の運転手 (2)
	パン屋 (2)

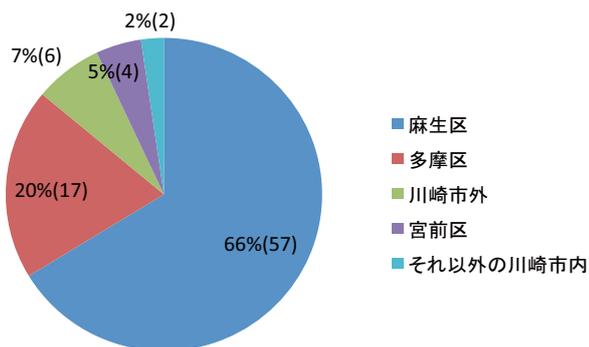
その他の意見

- 税金が高い。
- 掃除をする。
- 店舗を増やす。
- ユリー（給料）を高くする。
- 案内を充実してほしい。
- 楽しいお店を作る。
- 準備を早めにする。
- もっと色々なイベントをすればいいと思う。
- ユリーを毎年使えるようにする。
- 小さい子がわかるように燃えるゴミの具体例をかいたほうが良い。

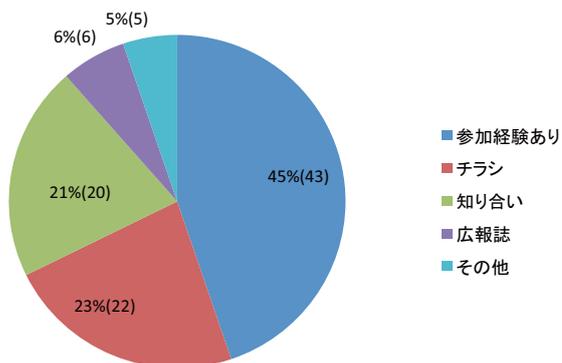
アンケート集計結果 大人

ミニたまゆり二日目の午後行ったアンケートの集計結果です。
アンケートの回収方法
食堂などでアンケート用紙を配布
回収場所：市役所前
回答数：86

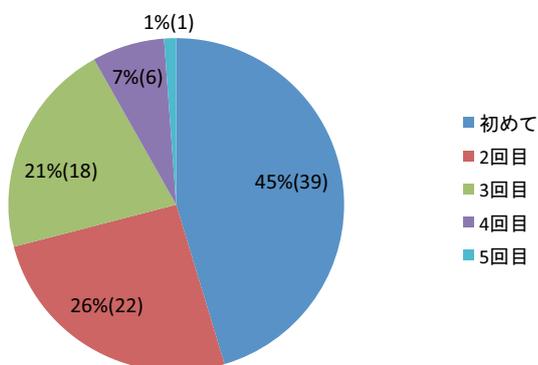
Q1. お住まいはどちらですか？



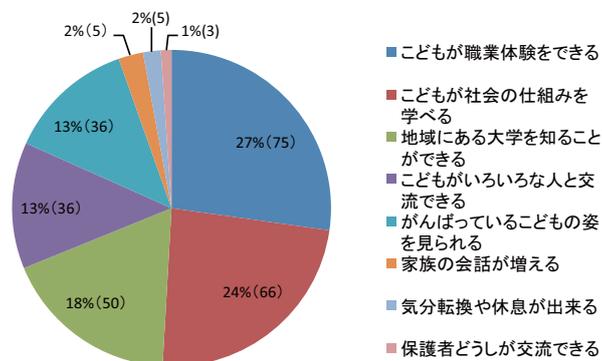
Q2. 参加したきっかけは？



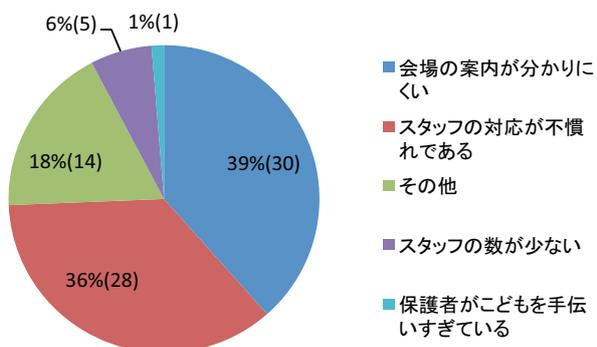
Q3. 今年で何回目の参加ですか？



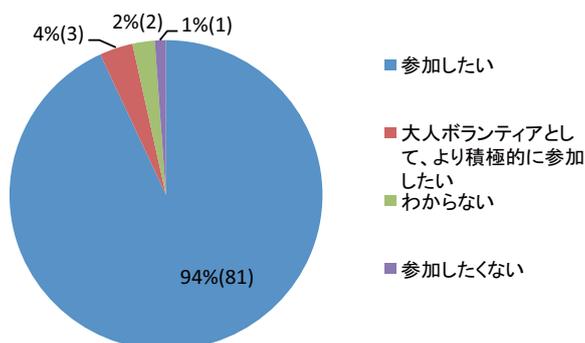
Q4. 良かった点



Q5. 改善点について



Q6. 来年も参加したいですか？



その他の意見

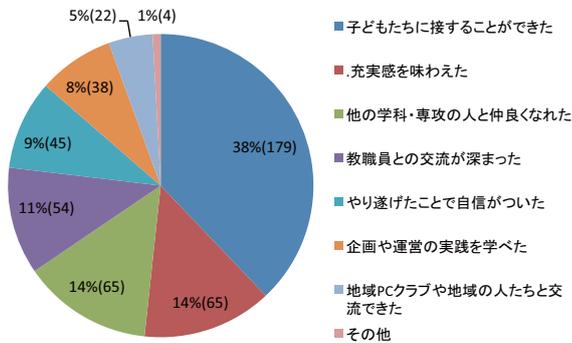
●子どもたちに仕事内容・ユリーの受取・おつりのことを教える。●銀行からユリーを盗まれないように見張りを置くべき。●大学生のサポートが不十分。幼稚園児または小学校1年生には不向きなイベントでは？小学校中・高学年対象のイベントでは？●帽子をかぶったり、ネームをつけたりなど見分けやすくするべき。●駐車場の案内をもう少しわかりやすくすると良い。●託児室があると良い。託児室を店舗にする。保護者は付き添う。●小学校低学年でも付き添いが必要。親の待機場所を椅子程度でもいいので作ると良い。●受付の対応を改善したほうが良い。複数年参加している子はビデオを省略するなどの対策をしてみても？●危ない事をする子やマナーが悪い子にはしかる。楽しいばかりだけでなく、厳しさも教えるべき。●子どもが何分働いたか把握できてなった。最初に時間が表示されたカードを持って仕事に行き、スタッフが終了の声かけをするとわかりやすい。●受付に行くのにとまどう。各建物入り口に全て受付の場所が書かれた張り紙をしてほしい。●仕事をもう少し増やして欲しい。●(携帯を)デコレーションするお店があったらいい。●最初の市民登録所で新規の人と子ども会議出席済みの人とがわかれていなくて、混乱した。●食品の解凍が不十分であった。学生が確認することが必要。●銀行や税務署でユリーを万引きしている子がいたので、管理する学生を置く。●会場案内の人がいると小さい子でもできるようになる。●スタッフが聞く人によって言っていることが違う。●昨日も来た!!と言う人を優先的に職安に連れて行くのがわからない。●スタッフが誰もいないブースがあった。●建物の入り口から矢印がないと受付にたどり着けない。●お給料に対しての物価が高すぎる。売れなければ値を下げるなどの工夫をすべき。●現金とユリー交換所を設置し、ユリーを買えると良い。いくら呼び込みされても買えないから。●大人が食堂で席を陣取ってしまい、子どもが座って食べたくても席がない。もう少し自由に座れる場所があればと思った。●始めるまでの時間がかかってしまったのが残念。●初日の市民登録所をもう少しスムーズな手順で行ったほうが良い。●子ども会議の会議リハースルで先行登録をすると良い。●子どもや学生が作った町というのをもう少しアピールすべき。お母様方で不満に思う人がいるので。●市民登録はプラカードを持って立っている人がいるとわかりやすい。●スプーンやフォークなども“マイはし”制度にし、ゴミを少なくする。●受付からビデオを見るまでの交通整理の対応が悪く、後から来た人に抜かされた。●子ども会議参加者とそうでない子をフロアでわけて対応する。●大人もユリーを使えるようにする。●税金の率を下げたい。●5号館1Fがわかりづらかった●コーヒョップは良い。食べ物も購入できると良い。●5号館の販売所を食堂に移動すると良い。●子ども会議は作業を入れていったほうが、集中力が続く。●初回費を500円・5ユリーにして、お客さんとしてまわれるようにする。●食堂が混みすぎて座れない。●たくさん並んでいるのに突然「あと3人まで」と言われると悲しいです。●15:00以降はゴミ袋の数を増やして欲しい。●お店の終了とお仕事カードの連携を上手に出来たらよい●子ども会議では、作り方などがわからないスタッフ・子どもが多かったのも、事前にマニュアルで細かくサイズなどを決めておくとも良い。●はさみ・のりが足りなかったのも、持参させると良い。●当日は、子ども会議参加者は9:00から受付できるはずだったが、混乱していた。ポスターなどで誘導するよい●品物の数が少なくなったら、早めにアナウンスしてほしい。●反省等を毎年書いて引継ぎをすると良い。●動線がわからない。参加者が動き方がわからないのはまずい。朝の受付時は案内係の充実を。●お客さんが全く来ない。「お客さん役の子ども」と「お店屋さんの子ども」の適切な割り振りが必要。●時間の表示が1:30だったり、90分だったりしていた統一が必要。●初日の昼ごろ髪飾りに仕事に行ったら、やってなかった。やってない仕事は早急に職安に連絡する方法を考えたほうが良い。●銀行・税務署が左から右に流れるようになっていたが、はじめはわからなかった。●机もしくは後ろに流れの表示をしてあげる良いのでは。●2日目「説明を聞いてください」と言われ、列に並んだが、市民カードに1日目2日目で来たかどうか確認する印を押す場所を作るのはどうか。1日目来てる人は別受付にする。●子どもたちが売ってるものを大人が食べられないのか。最初の登録でもらえるユリーくらいは親がもらえてもいいのかなと思う。大人と話す機会が少ないのでいい経験。●大人もユリーを使えたらと思いましたが、4:00までに商品がなくなるのでよくない。●職安・銀行・税務署は3階でなく、全体の真ん中に置くと良い。●外のイベントを作ると良い。例：ドッチボール●ミニたまゆり(子ども会議)が初めての人でもわかるチラシに。●マイはしを持ってきたが、はしを使う店舗が少なかった。もっとエコな方法に●子ども市長とわかるものをみにつけさせては？●行政のきょうりょくはだめですか？消防署など。●子どもはどの仕事が一番人気があるのか年代別(男女別)に統計をとれば増やす仕事が見えてくるのでは？

アンケート集計結果 学生

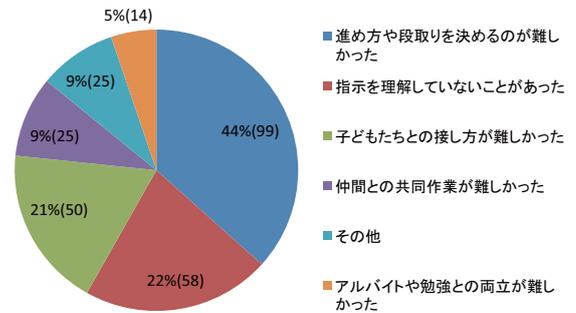
ミニたまゆりに参加したボランティア学生のアンケート結果です。
アンケートの回収方法
イベント終了時の出席確認としてアンケートを提出

回答数：203

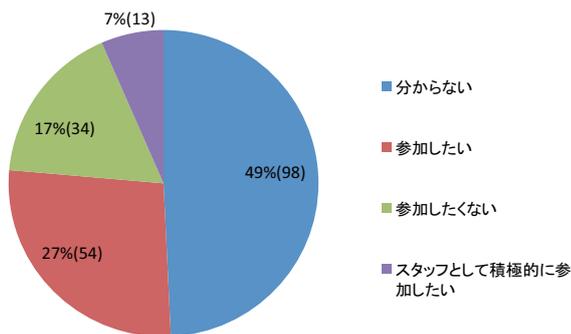
Q1. ミニたまゆりに参加して良かったこと



Q2. ミニたまゆりの難しかったこと



Q3. 来年も参加したいですか？



その他の意見

- 最初は、子どもたちが仕事をしてしまって、お客がこなかったので、つまらなそうにしていた。最後は、ユリーを使うために、子どもが仕事を辞めていったので、大変だった。
- ユリーの管理をしっかりとったほうが良い。ユリーの近くには、大学生や大人がいるべき。
- 大学生にもユリーを使えるようにして欲しい。大人も子どももみんなが楽しいものにすればもっと盛り上がる。
- 昼ごはんも子どもたちと食べたら、もっと仲良くなれると思う。
- わかり易く説明した。楽しんでもらうように真面目すぎず、どのようにしたら、お客が来るか、ヒントを与えながら説明した
- できるだけ子どもたちに任せた。特に静かな子にたくさん話しかける
- 子どもが怪我をしないように気をつけていた。大きなハサミを使う時は私に声をかけるようにした。
- 子どもたちとたくさん話し、楽しく仕事をするように心がけました。三つ編みの説明をわかり易くするために一緒に作った
- お客さんが来ない時は、他の店舗を手伝った。子ども案内や質問の対応、落とし物の検索を行って、なるべく積極的に動いた。
- 子どもたちに積極的に仕事をしてもらうために仕事中は、手を出さずに、軽くアドバイスした。
- 言葉を十分気をつけて子どもにはその子の目線になった対応した。
- とにかく動いた。子どもたちとは友達のように接することで安心感を出せた。

地域交流センターとは



地域交流センター（以下「センター」）は、ボランティアの紹介・相談や外部団体との連携などを行うセクションとして2009年4月に開設いたしました。

本学では、建学の精神「捨我精進」に基づき、まず人としての優しさや思いやりの心をはぐくみ、考える力を伸ばし、地域社会、国際社会に積極的に貢献していくことを基本理念としています。センターは上記の理念に基づき、学生スタッフや福祉系サークル等に協力を得ながら、運営を行っています。



ミニたまゆりにおけるセンターの役割

センターは、開室時からミニたまゆりの事務局となり、運営全般を実行委員と協力しながら行っています。特に、センターが中心に行っているのが、ボランティアのコーディネートと物品管理です。ミニたまゆりでは、多くの学生や地域の方々がボランティアとして参加しています。2年前から「福祉マインド実践講座※」が開講され、1年生全員がボランティアとして参加しているため、250名ほどのボランティアが動いていることになり、その調整は必要不可欠です。また、ミニたまゆりは2,000名以上の方々にご来場いただいているので、多くの物品が必要であり、その管理と調整も必要不可欠です。センター開設以前は、ミニたまゆりの担当になった教員が全ての実務と管理を行っていましたが、センターが管理を担うことで、業務分担ができ、スムーズな運営を行えるようになりました。

※「福祉マインド実践講座」：人間福祉学部1年生の必修授業。前期に座学を行い、後期にボランティアの実践を行う。

第6回 子どもがっくる町
二十未ゆり2011

 田園調布学園大学

〒215-8542 川崎市麻生区東百合丘3-4-1

TEL 044-966-2780

E-MAIL : c-center@dcu.ac.jp

<http://minitama.jp/>